

2012
7

長崎県

長崎県の“土木”のいまがわかります

NO.17

DOUOC通信

ながさき



被災した眼鏡橋と袋橋(手前)



長崎バイパスの緊急作業(川平地区)

特集
1

土木部の予算

特集
2

長崎大水害から30年

ずーむあつぷ
ながさき人

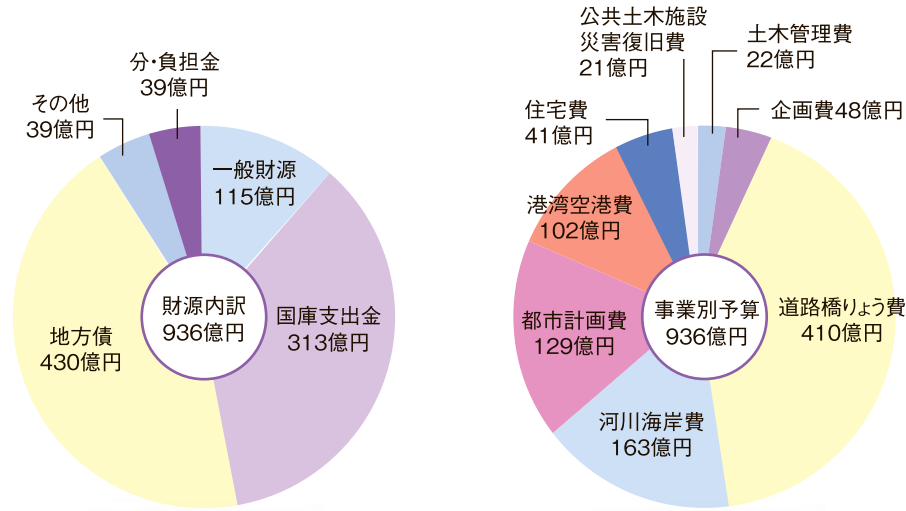
ふるさと散策

DOUOC インフォメーション

土木部の予算

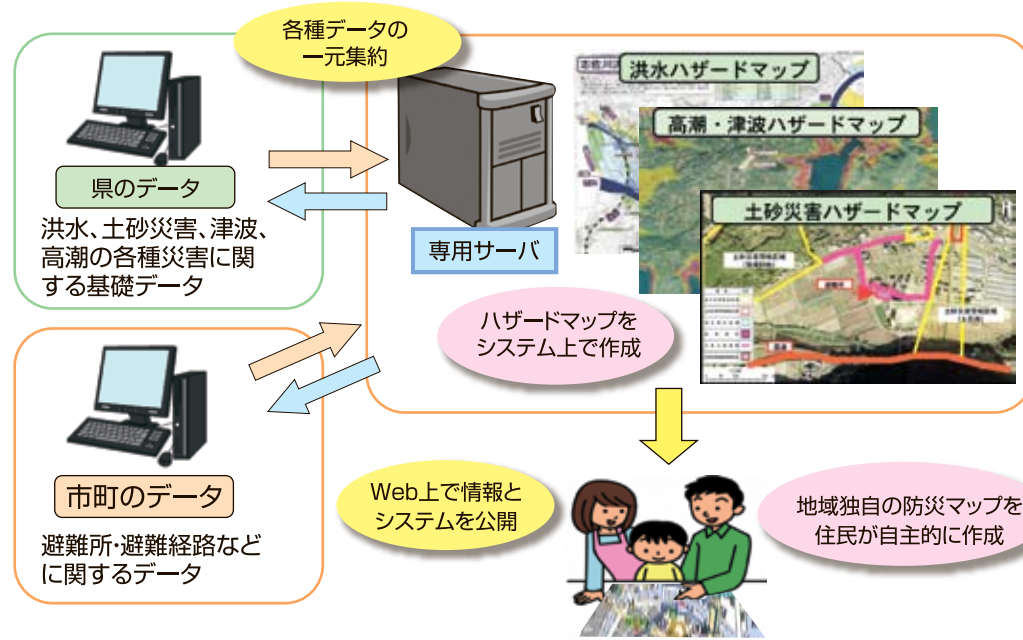
みなさんのご協力により完成しました。
ありがとうございました。

平成24年度長崎県土木部予算



平成24年度予算の 使いみちと財源

土木部の平成24年度の予算は936億円。
県民のみなさんの安全で快適な暮らしを支えるための事業を行います。



新たな取り組み

ハザードマップ作成支援システム事業

住民の安全な避難計画をサポートするため、ハザードマップ作成に係る支援システムを構築し、市町が行うハザードマップ作成・配布及び自治会等が行う防災マップ作成を支援します。

主な事業箇所

道路・街路

- ・島原道路(島原市・諫早市・雲仙市)
- ・西彼杵道路(西海市)
- ・JR長崎本線連続立体交差(長崎市)

都市公園

- ・県立総合運動公園(諫早市)

河川・砂防

- ・日野川(佐世保市)・鷺尾岳(佐世保市)

港湾

- ・長崎港(長崎市)・厳原港(対馬市)

住宅

- ・滑石団地(長崎市)・深堀団地(長崎市)



島原道路(愛野森山バイパス)

〔完成箇所〕



西海橋公園「西海の丘」 西海市
展望台、芝生広場などを備えた園地で、新旧西海橋やハウステンボスのドムートルンが見渡せる絶好の景勝ポイントです



都市計画道路 新郷ノ浦港線 壱岐市
バイパスを整備することにより既成市街地中心部の交通混雑の緩和と、歩行者の安全の向上が図られました



崎戸港海岸環境整備事業 西海市
高潮被害を抑制すると共に、県民が海に親しみレクリエーションを楽しめる空間を整備しました



島原港海岸保全事業 島原市
高潮被害を抑制し、伝統漁法「スキイ」を楽しめる親水式護岸を整備しました



街なみ環境整備(勝本浦地区) 壱岐市
建物が軒を接して建ち並ぶ典型的な漁業集落になじんだ修景を行いました



県営住宅(滑石団地1-12,13棟) 長崎市
建替工事によって、県営住宅の居住機能及び耐震性の向上が図られました



玉之浦トンネル(主要地方道玉之浦大宝線) 五島市
観光地への移動が便利になり、災害にも強い道路になりました



国道34号大村拡幅 大村市
4車線拡幅により交通渋滞の解消と交通安全の向上が図られました

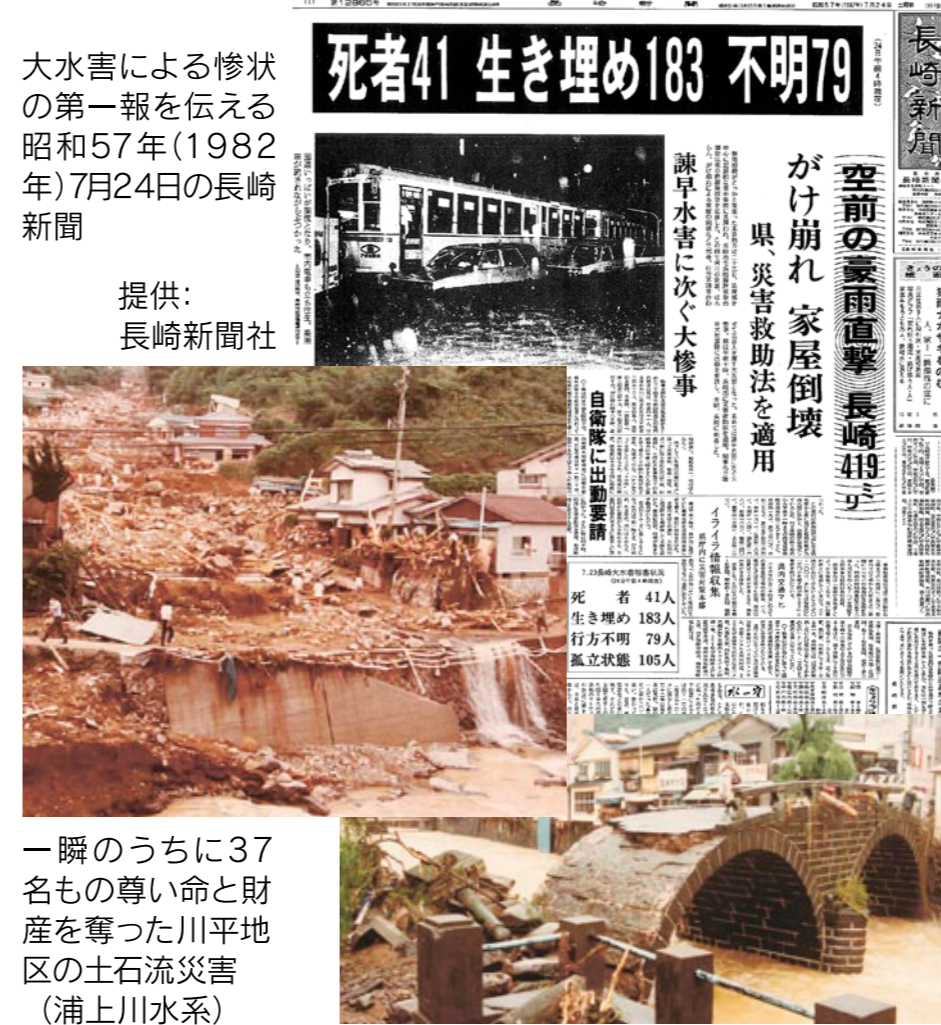
長崎大水害から30年

今年、昭和57年（1982年）7月23日に発生した長崎大水害から30年となります。長崎大水害は、死者・行方不明者が299名にものぼりました。この30年で見ると、わが国の豪雨災害の中でも最悪の犠牲者を出した未曾有の災害となっています。このときの激甚な被害の状況と、その後の取組みについてご紹介します。

各地で同時に多発した被害

大水害による惨状の第一報を伝える昭和57年（1982年）7月24日の長崎新聞

提供：
長崎新聞社

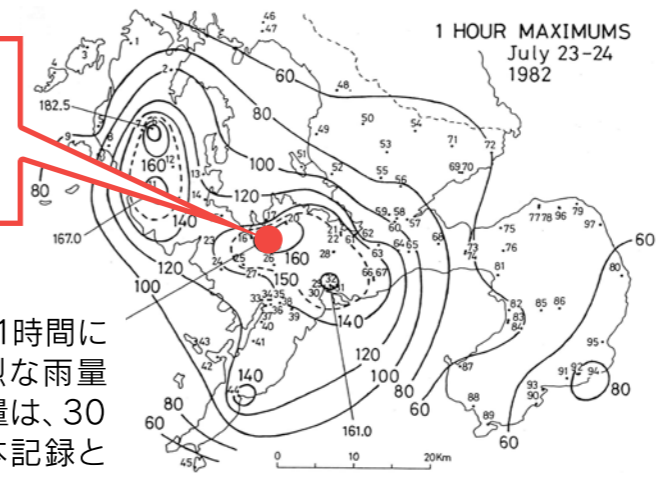


中島川の氾濫で一部流失した眼鏡橋

被害をもたらした日本記録の豪雨

長与町役場
187mm/時
(日本記録)

長与町役場では、1時間に187mmもの猛烈な雨量を観測。（この雨量は、30年後の今でも日本記録となっています。）



最大1時間降水量 (mm)
出典：長崎大学学術調査団報告書

復旧・復興の歩み



中島川の洪水を調節する本河内低部ダムの概成（平成23(2011)年度）



中島川・眼鏡橋の現地保存のためのバイパス水路の完成（平成18(2006)年度）



日見峠芒塚川付近の国道34号の改良と砂防事業の完成（昭和61(1986)年度）



長崎県河川砂防情報システム(ナックス)を通じた雨量・水位等の情報提供による防災活動の支援（平成16(2004)年度末全県公開）
<http://www.kasen-sabo.pref.nagasaki.jp/>

これからの取組み

東日本大震災等の大規模災害を受けて、施設整備などのハード対策と防災情報の提供などソフト対策を組み合わせ、被害の最小化を図る「減災」の考え方を実現することが必要です。このため、「自助・共助・公助」のバランスや地域のつながりの重要性をふまえて、自然災害等に強い県土づくりと私たち一人ひとりの防災意識の向上を図る取組みを進めていきます。

シンポジウムを開催します！

長崎大水害30年シンポジウム
「30年前を忘れない ～長崎大水害の教訓を未来へ～」

長崎大水害の教訓を未来へ伝えるため、当時の被災状況と復旧復興の歩みを振り返り、近年頻発する大災害や、社会情勢の変化を見つめます。大災害に備えて、自然と私たちの関係を再確認し、日頃からどのように取り組むべきか、一緒に考えましょう！

日時 7月21日(日) 午後2時～午後5時 申込み 6月20日(木)～7月20日(金)
場所 長崎ブリックホール国際会議場 問合せ 県の河川課 ☎095-894-3083
(長崎市茂里町)

ぜひ
ご参加
下さい！



みんなで スキイを造ろう会

会長
中山 春男さん

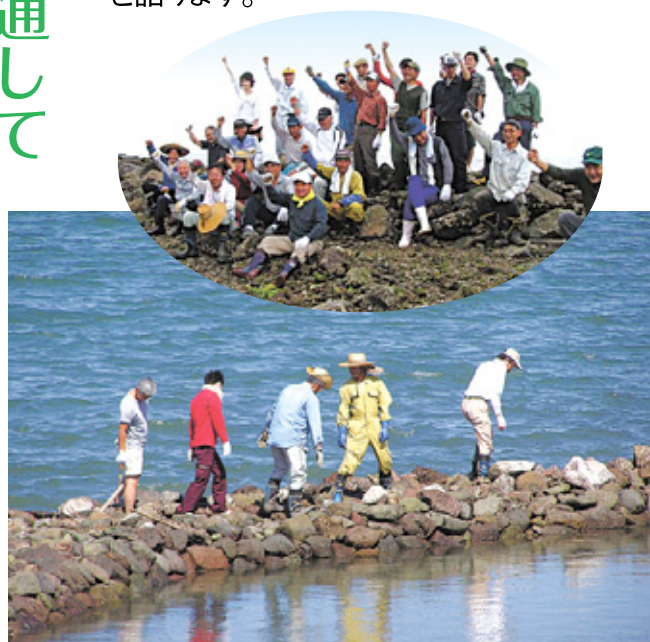
島原城から島原湾へ進むと見えてくる横幅270mもの石垣の囲い。ここは潮の干満を利用して行う「スキイ漁」といわれる伝統漁法の跡地。魚は満潮時に石積みの中に入り込み、潮が干上がると石垣の内側に残り残されます。干満の差を利用したこの漁は、かつて島原半島などで盛んに行われていました。約300年前には島原半島に158基あったものの、年々数が減少。今はこの1基のみを残すだけとなりました。このスキイを守っていきこうと運動をしているのが「みんなでスキイを造ろう会」のみなさん。年に2回の清掃活動や、イベントを通してスキイを広める活動をしています。

「私が小さい頃、スキイは格好の遊び場でした。当時は海水浴場などなく、学校帰りにスキイで磯遊びを楽しんだものです。スキイが貴重なものだとはいえず、当たり前存在として受け取っていましたが、大人になって調べてみると、島原半島に唯一残る貴

自然の大切さを伝えたい
島原半島に唯一残る「スキイ」を通して

重な存在ということに気づきました。しかしスキイに積まれていた石垣は崩れてゴミも散乱。そこで清掃活動や石垣を再生する運動から始めました」と会長の中山さん。

現在は年に2回の清掃活動、石垣の積み直し作業などを行っています。「スキイ漁自体は現在行われていませんが、遊び場としてスキイの存在を知ってもらいたい。そこで毎年5月にスキイ祭りを開いています。今年の参加者は250人と盛大なものでした。スキイの中にイシダイやヒラメなどを放流し、タモですくって遊びます。子ども達も多数参加してくれ、スキイを通して自然を大切にすることを学んでくれたと思います。これからもイベントなどを通して、島原の自然や遺産について積極的に伝えていきたい。」と語ります。



長崎県の美しいまちづくり

屋外広告物編



「屋外広告物」とは、簡単に言うともちなかでよく目にする「看板」のことです。屋外広告物は、情報を伝えるだけでなく、地域の景観や人々の生活に大きな影響を与えます。大自然の中や閑静な住宅街に、巨大で派手な広告物が建つと景観が壊れますし、倒壊による住民への危害や、交差点の見通し不良などによる危険も考えられます。

これらの防止のため、長崎県屋外広告物条例では、必要な規制などを行い、良好な広告景観を目指しています。

しかし、規制だけでは地域の良好な景観は築けません。地域住民がルールを決めて高い意識の中で景観づくりを行うことが重要です。

そこで県では、広告物と地域の景観との調和を図るため、条

例に「広告景観モデル地区」を定めて良好な景観づくりを積極的に進めています。

現在、島原市・大村市・平戸市においてモデ



ル地区を指定し、その一部では県の助成も行っています。地域で合意した基準に沿って「看板」等を整備することにより、全体として統一感が感じられる一方で、細かいところにそれぞれ個性が漂っていて、訪れた人を楽しませてください。モデル地区にある広告物の写真を記事の周りに集めてみました。また、以下にモデル地区の部を紹介いたします。



まずは島原市森岳広告景観モデル地区。島原城から島原駅に続く七万石坂を下ると、徳川時代からの城下町として栄える森岳地区があります。

金物店では、外壁に立体的に描かれた龍の彫刻と並んで木製の風格ある広告物が店の雰囲気を引き立てています(写真①)。地区内の広告物は、基本的には石、木、竹、布などの天然素材で作ることとしており、涼しげな湧き水と相まって城下町の昔ながらの

雰囲気を演出しています。続いて平戸市城下町地区広告景観モデル地区。古くから海外交流の要所として和と洋が交じり合うまちなみ、観光名所として寺院と教会が見える風景は有名です。

昨年9月に復元されたオランダ商館から城下町地区へ足を踏み入れると、板張りで昔の雰囲気たっぷりの町屋が軒を並べ、その店先には職人の腕が光る広告物が我々を迎えてくれます。よくよく見ると船具店の広告物をかけている金具がイカリの形をしていたり(写真

②)、酒造場の広告物が酒樽そのものだったり(写真③)と、ユーモアとセンスが組み合わさって、思わず顔がほころんでしまいます。



あなたの住んでいるまちにも、心くすぐる広告物がきっとあります。まちなみ散策をしながら、自分のお気に入りの広告物を見つけてみてはいかがでしょうか。(景観班/世知原)



日本風景街道「ながさきサンセットロード」道の駅スタンプラリー2012開催!!

■問い合わせ先=「道の駅」遣唐使ふるさと館 ☎0959-84-3555

ながさきサンセットロード沿線で自然と歴史が織りなす風景を眺めながら、道の駅での休息や出会いを楽しんでいただけるよう、7月1日～9月30日の期間、長崎県内9駅中、5駅分の橋のスタンプを集めると特産品が当たるスタンプラリーを開催しています。ふるって応募ください。(スタンプシートは長崎県内の各道の駅で入手出来ます。また、下記ホームページからプリントアウトしても活用できます。)

日本風景街道 長崎の橋めぐりを楽しもう!
「ながさきサンセットロード」～橋でつながる教会と歴史の道～
道の駅スタンプラリー2012

実施期間: 7月1日～9月30日

スタンプラリー期間中に長崎県内「道の駅」全9駅中5駅で橋スタンプを集めるとすてきな特産品が当たります!!

スタンプ	特産品
1. 長崎県立美術館	長崎県産 長崎県産 長崎県産
2. 長崎県立美術館	長崎県産 長崎県産 長崎県産
3. 長崎県立美術館	長崎県産 長崎県産 長崎県産
4. 長崎県立美術館	長崎県産 長崎県産 長崎県産
5. 長崎県立美術館	長崎県産 長崎県産 長崎県産

※スタンプラリー期間中に長崎県内「道の駅」全9駅中5駅で橋スタンプを集めるとすてきな特産品が当たります!!

※スタンプラリー期間は長崎県内「道の駅」全9駅中5駅で橋スタンプを集めるとすてきな特産品が当たります!!

※スタンプラリー期間は長崎県内「道の駅」全9駅中5駅で橋スタンプを集めるとすてきな特産品が当たります!!

※スタンプラリー期間は長崎県内「道の駅」全9駅中5駅で橋スタンプを集めるとすてきな特産品が当たります!!

<http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/~n-fukeikaidou/>

「耐震・安心住まいづくり支援事業」

昭和56年5月31日以前に建てられた木造戸建て住宅(持ち家)について、耐震診断に要する費用の一部に助成を行います。お住いの地域によっては、耐震補強計画や耐震補強工事に要する費用についても一部助成を行います。詳しくはお住まいの市役所、町役場へお問い合わせください。



あなたの大切な
家族や財産を守るためにも
ぜひ一度
耐震診断を受けることを
おすすめします



■問い合わせ先
県の住宅課 ☎095-894-3104

「第24回長崎県まちづくりの絵コンクール」 ～小学生から絵を募集しています～

※詳しくは県都市計画課まで(ホームページ<http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/~toshi/> Tel.095-894-3033)

- テーマ「つくってみたいなこんなまち」
- 応募資格 県内在住の小学生
- 応募期限 平成24年9月14日(金)

平成24年度(第30回)土砂災害防止「全国の集い」

6月6日(水)長崎市公会堂において、平成24年度(第30回)土砂災害防止「全国の集い」が開催されました。

式典では、土砂災害防止功労者表彰が行われ、長崎市の高橋龍城さんほか1個人5団体に表彰状と記念品が贈られました。

特別講演では、群馬大学大学院工学研究科の片田敏孝教授をお迎えして、「自然災害に備える～居安思危」というテーマで、これから求められる防災のあり方などについてお話いただきました。

パネルディスカッションでは、まず、長崎豪雨災害を振り返り、災害の恐ろしさを再認識するとともに、土砂災害対策に大きな方向性の変化が起きたことを確認しました。それを踏まえながら、長崎豪雨災害以降の県や市の土砂災害防止への取り組みや、土砂災害

における「自助」「共助」「公助」で構成される地域防災力を一体で向上させることの重要性、行政機関・住民(地域)の役割と今後のあり方等について、それぞれの立場から意見交換を行いました。



片田敏孝教授による特別講演